
編集後記

2019年12月に新型コロナウイルス感染症が発生し、3年が経過しました。新型コロナウイルスは変異を繰り返し、何度も流行ピークを迎え、感染した透析患者の治療も入院のみでは対応できず、感染対策を厳重にしながらの外来加療となってきています。

そのようななか、2022年度春期研修セミナーもweb開催となり、2022年6月1日から6月30日まで配信されました。日本透析医会雑誌37巻3号では、その際の講演プログラムの内容を掲載させていただきました。新型コロナウイルス感染症に注目が集まりますので、「COVID-19 Update」と題して安藤亮一先生に概説いただきました。また、今年度は診療報酬改定もありましたので、「2022年診療報酬改定と今後の透析医療」と題して太田圭洋先生に概説いただきました。さらに、「CKD（透析）患者のPatient Reported Outcomeを考える」と題して柴垣有吾先生に、「透析患者における痛みのマネジメント—緩和医療の立場から—」と題して木澤義之先生に、「透析患者にも始まった大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術：TAVI治療」と題して伊藤丈二先生に概説いただきました。いずれも現在の透析医療に関わる興味深い内容ですので、ぜひご一読いただければ幸いです。日本透析医会の会員の先生方には研修セミナーのDVDの無料貸し出しも行っておりますので、施設職員の教育・研修活動等にご活用いただければと思います。

「医療制度・医療経済」では、本年6月に「日本医療研究開発機構（AMED）長寿科学研究開発事業高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」研究班から、「高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法—conservative kidney management（CKM）の考え方と実践—」が出版されました。AMEDの研究班のメンバーである酒井謙先生から、「透析の見合わせ—「高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法」について—」と題して概説いただきました。

その他、「医療安全対策」では「令和3年透析医療事故と医療安全に関する調査報告」を中心に5題、「実態調査」1題、「臨床と研究」7題、「支部講演」4題、「透析医のひとりごと」2題、「たより」3題と多くの原稿をいただきました。いずれも重要なテーマで、非常に充実した内容になっており、先生方の日常診療のお役に立てると確信しております。

会誌編集委員 伊藤孝史